

■ 議題

今回の審議委員会は、3月12日（土）午後1時30分から放送の田中曜子ナビゲーターが旅行で実際に訪れた場所を紹介するコーナー『曜子の旅日記』の中で、東日本大震災時、福島に住んでいた田中ナビゲーターが、自身の体験談と、同日午後2時から、福島県郡山市在住の方と宮ノ下・田中ナビゲーターが震災について電話インタビューした模様を聴いて審議に入った。

※ 『曜子の旅日記』は、毎週土曜日午後1時30分より放送。

■ 審議内容

会社側： 審議に入る前に、前回の審議会での意見に対しての回答、報告、今後の放送予定、聴取していただいた番組の補足などを説明した。

大萱委員長： 只今、試聴したコーナーの内容や、普段聴いている放送についてなど、順次、意見ををお願いしたい。

先回、田中ナビゲーターは、明るく元気に「旅」の話題を紹介していた。今回は、震災について取り上げていたので、このような話題だと声のトーンが低くなるのかと思ったけれど、トーンが下がることなく紹介していたので、逆に良かったと思う。不謹慎に感じた方もいるかもしれないが、私は頑張っている印象を受けた。

原委員： 『曜子の旅日記』の中で田中ナビゲーターが当時、福島に住んでいて地震によって被災した話は良かったと思う。震災を実際に体験した人の話を知りたいと思うし、生の声をどんどん伝えて欲しいと思う。あれだけの災害なので、話をたくさんしたい気持ちはよく分かるが、短い時間の中で多くを紹介するのは非常に難しいと思う。田中ナビゲーターが震災に遭って感じた事、経験した事、不安だった事など、素直に自分の体験話や思った事を中心に絞って話をすれば、臨場感があって今後の参考になるのかなと思った。

ただ、宮ノ下ナビゲーターと2人で進行している番組なので、宮ノ下ナビゲーターから田中ナビゲーターに「その時どうだったの？」みたいな問いかけをしても良かったのではないかなと思った。

『電話インタビュー』の中では、震災を体験した方に具体的な話を聞いたので、より臨場感を感じた。

大萱委員長： 原委員が言うように、内容的には良かったと思う。

田中委員：今回、震災の内容という事で、田中ナビゲーターにとって辛い思い出だったと思うが、暗くならないトーンで話していたので良かったと思う。ただ、内容のわりにBGMがポップだった気がした。田中ナビゲーターが、震災の体験をいろいろ話してくれたのは良かったが、さらに「何が必要だった」・「何が困った」など、もう一步踏み込んだ情報を話してくれたら、聴いている側も知識が得られると思った。

『電話インタビュー』については、私もヒッツFMをはじめ、他のコミュニティFM放送の電話インタビューを受けたりするが、スタジオとの掛け合いの難しさを感じている。

大萱委員長：電話の音質は、以前より良くなったのか？システムが変わったのか？

会社側：システムは以前と変わっていないが、相手側の電話環境（スマートフォンの使用など）が良いのかもしれない。

溝上委員：私も2人の委員の意見と同じで、震災を体験した方の生の声を聞くことは、凄く大切な事だと思う。他の人から聞いた内容を伝えるよりも、生の声を話してくれた方がリスナーの心に響くと思う。時が経つと、震災の事も忘れ去られていくので、このような事を定期的に紹介すると良いのではないか。原委員からも意見があったが、伝えたい事はたくさんあると思うが「あれもこれも」と話すと聴いている側も疲れてくると思うし、宮ノ下ナビゲーターと一緒に番組を進めているのであれば、そこで上手く掛け合いながら進行した方が良い気がした。

大萱委員長：震災から5年が経ったが、3月11日が近づくと「風化をさせてはいけない」という思いは全くその通りで、ラジオでも風化させないように役目を負っていかなければならないと思う。

元田委員：『曜子の旅日記』については、体験した方でないと話せない事がいくつもあったし、『電話インタビュー』についても、その場に居た人でないと分からないその時の状況が聞けた。（高山は東北から）遠く離れているので聴こえてくる話題も少ない。まだ、原発のデモなどをやっているのかなど、その場に生活している方でないと伝えることのできない情報だと思う。だから聴いていて興味が持てた。それと、他の委員と同じ意見で、話したい事はたくさんあると思うが、要点を絞って紹介すれば良いと思った。遠く離れていても同じ日本の中で起きた出来事だし、「いつ、どこで、だれが、どうゆう目に遭うか」分からないので、ぜひ、このような体験話をこれからもして欲しいと思った。また、番組の構成を変更すれば短い時間でも長い時間でも紹介できると思う。

『電話インタビュー』については田中委員と同じ意見で、電話でのやりとりは難しい事だと思うが、相手の方も上手に話をしてくれて、その日にどのような状態だったか分かったのが良かった。遠くの方と電話インタビューをするのは、被災者に限らず、いろいろな機会で行えば良いと思う。

大萱委員長：先回も「防災」について意見交換したが、「あの時、これが無かったから困った」とか「これがもっとあれば良かった」など、実際に体験された方が話をすると伝わり方が違うと思った。

土屋委員：私の他の委員と同じ意見で、題材的にはすばらしいと思った。この時期（3月11日前後）に、震災の内容を放送することは良いと思った。この辺りでも南海トラフ地震の発生が懸念されているので、防災につながるためにも、震災に関する放送をしてもらいたいと思う。他の委員と同じでやはり、（短い時間枠の中では）田中ナビゲーター自身の事例に絞って話をしたほうが良い気がした。放送の中で「日常」という言葉がよく出てきたのだが、私も2週間程経ってから東北の現地に行って話を聞いたのだが、被災された方は当たり前のように、ご家族の方が未だ行方不明だという話をしていた。現地では道路復旧の手伝いや、その他にも足りない建設資材の手配を支援する事もしたが、中には棺桶が足りないということで棺桶のオーダーがあったりもした。実際に何が必要なのかわからなかったのが、今後もラジオで現地の声を聞き伝えて、防災の備えに役立てていけるようにしていくべきではないかと思う。

大萱委員長：多くの被災された方の話だけでなく、棺桶の話とか、現地以外では聞くことのできない話もしたほうが良い。話しづらいとは思いますがラジオで伝えても良い気がする。

安田委員：岐阜県は、皆さん承知の通り災害の多い県で、山の事故など、命を落とされる方がたくさんいる。だから、震災に関する生の声が非常に響くので、今後、こういった内容を放送して欲しい。どうしても人間の記憶は、時間が経つと薄れてしまうので、定期的にこういった企画をやってもらうと非常にありがたい。他の委員からの意見にもあったように、時間的な制約や、放送の時間帯などを考えて紹介していると思うので、たくさん話をしたいところだが、自分の体験談などに絞って紹介すれば、さらに心に響くと思う。『電話インタビュー』については、遠く離れた所からでも、現地の声が私たちの耳に入ってくるのでこのような企画は良いと思う。ただ、電話インタビューでこちらの意図とする話を引き出す事は難しいと思った。

例えば、今回、反原発の話が出たが、リスナーからすると「今の復興の状況はどうなのか?」「現状はどうなのか?」「何か足りないのか?」など、知りたい事はいろいろだと思うので、テーマを絞るのは難しいと思うが、少しでも、いろいろな要望に応えられるような番組・コーナーをやってもらいたい。

大萱委員長： この放送はスポットで終わりなのか?

会社側： はい。

大萱委員長： 「定期的」いう意見もあったので、検討して欲しい。震災関連の話は、3月11日周辺に集中しがちだし、地震はいつ起こるのかわからない。だから常に防災関連の話題はあっても良いのかなと思った。そう言えば『電話インタビュー』の時に、「ダンスと一緒にぶっ飛んだ」とか「この世の終わり」とか、笑いながら話をしていたけど、私は「素敵だな」と思った。実際に大地震を体験して生きているから、笑って言える。あれが体験していない私がインタビューすると不謹慎になる。だから、気持ち率直に出してもらって良いのかなと思った。この事について、リスナーから何か意見は有ったのか?

会社側： 特に無かったと思う。

大萱委員長： 今日は、佐藤ナビゲーターが出席しているが、同僚として感じるものがあれば答えて欲しい。

佐藤ナビ： 私も他の委員の方と同じで、実際、生の声というのを聞く機会がなかった。今日、この場において聴くことができた。田中ナビゲーターはなんて素敵な企画を打ち出したのだろうと感心した。大萱委員長からも話があったが、お互い生きている中で、田中ナビゲーターもトーンを崩さず伝える事ができたし、心に響くものもたくさんあって、本当に素晴らしい企画だと思った。私の場合は、震災から5年を迎えた日（3月11日）の午前中、番組を担当したが、トーンを低めにし、選曲もおとなしい曲ばかりにした。ちょうど、東日本大震災の日、私は東京で仕事をしていた。仕事をしていた事務所がビルの36階にあり、その時、私はたまたまその場にいなかったけど、同僚の話によると、ビルの揺れ方が凄かったとか、近くの幹線道路が渋滞して通れなかったとか、人が自宅に帰れずあふれていて見たことがない光景だったことを聞き、自身の番組の中で紹介した。しかし、『電話インタビュー』するなど、生の声を伝えることはできなかった。

大萱委員長： 聞いた話だけど、佐藤ナビゲーターにもいろいろな思いがあって放送したと思う。たいへん大事な事だと思う。先ほどもあったように、定期的に放送するとなると、実際に震災を体験した田中ナビゲーターがその気があるのかどうか分からないが、コーナーとしてやって欲しいと思う。

原委員： 私、ボーイスカウトの活動をやっている、その中の話だが「備えを常に」という、いつ何時があっても、いろいろな事に対して常に対処できるように備えて欲しいと教える事をしている。土屋委員（国土交通省）は、道路の管理とか、また安田委員（警察署）も当然、何かあった場合の対処の仕方を自前に考えていると思う。常に、何かあった場合の対処の仕方は考えていくべきなので、番組の中で、震災にあった体験などを紹介するのはとても有効だと思う。まさに自分が体験した事を話せば、切迫感があったり、わかりやすく伝わると思う。今後もそのような番組作りをして欲しい。地震についての話だけでなく、災害、事件、事故などを含めて「何かあった時にどうしたら良いのか」ってことに繋がると思う。

大萱委員長： 私は高山市市民吹奏楽団に所属していて、楽団として以前、アメリカに旅行に行っている時に、ちょうど北海道で震災があり、日本から来ているということでアメリカのマスコミがインタビューしに来た。（高山と北海道は）日本人から見ると同じ日本でも遠い場所のイメージだけれど、海外の方から見ると「隣の出来事だろ」と、全く捉え方が違う。同じ国民として心配はするけれど、私の場合、北海道に親戚がいるわけでもないので、何も考えずそのまま旅行したのだけれど、アメリカの方からすると「あなた達からすると隣で起きたことじゃない」と深刻に言われる。私達もそれを感じなければいけないと思った。原委員の話の中での言葉「備えを常に」をとという教えは良いと思った。1回放送をしたらおしまいではなく、何度も何度も「またか」と言われても放送すべきなのかと感じた。今回の試聴した番組では、震災という少し重い内容を取り上げていたので、そちらに関する意見に集中したが、通常の番組についてなど、他にも意見があればどうぞ。

田中委員： 外からのレポートコーナーを午後から放送しているようだが、せっかく外からレポートしているのに、3分ぐらいで終わってしまうのは短いと思うので、もう少し長くても良いのではないかな。それと、レポートの方の1人喋りが多い気がするので、周りの方（現場の方）の声も聞けると良いと思った。

大萱委員長： リポーターは現在、何人いるのか？

会社側：主に宮ノ下ナビゲーターがリポートを担当している。宮ノ下ナビゲーターが休みの時は、違うナビゲーターがリポートしている。

大萱委員長：どちらかというと、状況を中心に説明しているのか？

会社側：状況を中心に説明している場合もあるし、現場の方がいれば話を聞きリポートしている。確かに時間枠が短いので、それほど時間をかけずにまとめている。今後は、少し長めに時間を取るように考える。

大萱委員長：検討して欲しい。他、意見があればどうぞ。

安田委員：先ほど、原委員から「備えの準備」という話があったが、地震や災害などとっさの出来事が起きた時に、人は「感性」で動くと思うし、実際、マニュアル通りに行動することはできないと思う。「感性」を磨くためには「経験」が必要だと思うし、「経験」が無ければ「知識」を身に付けたり、繰り返し「訓練」することがとっさの避難行動へ繋がると思う。「感性」を身に付ける為の1つの手段として、耳に残るラジオからの災害に関するいろいろな情報発信の役割は大きいと思う。私達が一番関心をもっているのは、実際に自分がその場で被災したら、どのような行動をしたらよいのかが大きな課題だ。ラジオで、被災者の話を聞くとか、「こうゆう点に注意して欲しい」などを、何回も放送する事によって、それが頭に中に残り、良い方向に行動が移せるのではないかと思う。南海トラフ地震については、ここ10年で発生する確立が高いので、防災に関して、是非、力を入れて欲しいと思う。

大萱委員長：その為にも各機関との連携は必要になる。災害時のラジオの役割は大変大きく、ヒッツFMも重要な任務を背負う事になると思う。しかし、まだまだ聴こえないエリアが有るようだがどうか？

会社側：高山市は広いので、一部で聴こえないエリアがある。

大萱委員長：聴こえないエリアが孤立する可能性もあるのではないかと？

原委員：高山から名古屋へ高速道路を使って行くときに、途中でラジオが切れてしまうが、何とかならないのか？

会社側：あの辺りは厳しいエリアだと思う。

原委員： 高速道路を運転中、ラジオを聴いていたが、だんだん聴こえにくくなった。高速道路の高山市清見町（エリア内）の付近を過ぎると、1回、ガクンと受信レベルが下がって、郡上（エリア外）までの区間、受信できないようだ。ちなみに、その区間は他のラジオ局も受信できず、ラジオが全く受信できないエリアとなっているので、そのようなエリアを無くしていけば良いと思う。だがら、ヒッツFMが聴こえるように働きかければ良いと思う。高速道路は、地元の方のみならず、観光客の方も利用するので、「飛驒に入ったらヒッツFMを聴いて」などの看板も立てて、受信できる環境を整えれば、郡上付近から高山市まで約1時間、ヒッツFMを聴いてくれる方も増えるのではないかと。何とかできないか？

大萱委員長： ヒッツFM開局当時から「エリアを広げる事ができないのか？」と言われ続け、何とかエリアを広げていったけれど、まだまだの部分があるように思う。

原委員： 高速道路を使って高山まで来る方が増えているので、この辺りを対処して欲しい。

会社側： 高速道路がある清見付近にも中継局はあるが、すべてをカバーするのは難しい。

原委員： 確かに、ヒッツFMだけの努力では難しい事だとは思いますが、行政に働きかけてやってもらうようにして欲しい。そうしないと、あの付近に情報が伝わらないのではないかと。思う。

大萱委員長： 以前の番組審議委員会の時に返事を聞いたかもしれないが、インターネットラジオはどうなっているのか？

会社側： 今年4月からのサービス開始は難しいが、7月19日の開局記念日に向けてインターネットラジオを始める計画をしている。もちろん、費用がかかるが、現在は市内でも難聴地域があるし、またインターネットでヒッツFMが聴ければ、高山の情報を高山以外の所で聴く事もできるので、力を入れていきたい。

大萱委員長： 中継局を立てるよりは、早くエリアを拡大できるので、ぜひ進めて欲しい。海外でも聴けるのか？

会社側： 聴く事ができると思う。

大萱委員長： 高速道路で聴けないとか、いろいろな問題があるが、土屋委員（国土交通省）はどのように考えているか？

土屋委員： トンネルの中でラジオが聴けるようになっているのだが、ヒッツFMを含め、FM局は入らない。広域なAM放送のみ（一部）が、設備を作り聴ける環境になっている。今後の課題だ。

大萱委員長： ヒッツFMの看板は主要道路に立ててあるのか？

会社側： 東西南北に各1つずつ立ててある。さらに看板を増やすとなると許可の問題、費用の問題などがあるので、それ以上の事は何もしていない。

大萱委員長： 例えば高速道路を走っていて、常に76.5MHzに合わせていれば、勝手にヒッツFMを受信し、ここからヒッツFMが聴けるといえるのは分かるが、受信可能な境目付近に看板を立てるのは無理なのか。やはり、聴いてもらわないと、いくら良い番組をやっても意味が無い。まずは観光客にヒッツFMを聴いてもらって、情報を得てもらう事が大切だと思う。許可とか、お金の問題とかあると思うが、ぜひ検討して欲しい。

原委員： 高速道路のサービスエリアで、何かヒッツFMの情報出しているのか？（ポスターや番組表など）

会社側： 何も出していない。

原委員： ポスターを1枚、中に貼らせてもらうとかできないか？

大萱委員長： 高速道路下りのサービスエリアだけでも良いと思うが。

原委員： お金をかけなくても、できることからやっていく事を考えていかなければならないと思う。例えば、トイレの前にポスターを貼っても良いと思う。

大萱委員長： ぜひ検討して欲しい。ところで、高山祭りのサテライトは今まで通りの予定なのか？

会社側： 例年と変わらない。春祭りは陣屋前広場にサテライトスタジオを設置し、放送する。その他、イベントも春以降多くなるので、随時放送する予定。

原委員： 内容は一緒なのか？

会社側： ほぼ同じになると思う。市民の方も当然だが、観光客に向けての放送にもなると思う。

大萱委員長： 祭りの時は警察の方も忙しくなると思うし、今年は伊勢志摩サミットがあって、ますます忙しいのではないか。安田委員（高山警察署）その辺りはどうか？

安田委員： サミットは忙しいが、私は高山に残って高山の治安を守っていく。

大萱委員長： 人の集まる所には、犯罪者も集まってくるので、ラジオでも気をつけるように呼びかけて欲しい。

会社側： 先週、高山警察署の刑事課長がヒッツFMに初めて出演した際、振り込め詐欺が多いということで、広報を強めていきたいと話していた。先ほどの話ではないが、常に広報していけば耳に残って「気をつけようかな」と思うのではないか。高山警察署の方には引き続き、広報・啓発活動をお願いしたい。

安田委員： こちらこそお願いしたい。ヒッツFMを含め、いろいろな媒体を使って広報していきたい。

大萱委員長： 他に意見が無ければ、これで閉会する。

会社側： 本日は貴重な意見を頂き感謝している。ますます番組に反映したいと思う。

■ 審議機関の答申又は、意見の概要を公表した場合における公表内容、方法年月日

3月22日 番組審議委員会の席上で説明

■ その他の参考事項

次回開催日 平成28年5月下旬

開催場所 飛騨地域地場産業振興センター（予定）